

# 宮城県「柔道整復学」構築学会 投稿・発表規定

2008年（平成20年）11月8日制定

## 1. 投稿・発表について

本学会への投稿及び発表は、原則として宮城県「柔道整復学」構築学会の会員に限るが、特に本会に寄与する論文と判断され、本会の会員が1名以上の共著者となっていれば会員外の投稿及び発表も受理します。

以下の6つのポイント（約束事、常識）をふまえて、しかも積極的に、気軽にどうぞ公にしてください。

1997年（平成9年）、第6回日本柔道整復接骨医学会総会時の、金城 孝治会長の講演にありました言葉、「職域拡大には・・・医療知識と技術の向上によってのみ可能である」は、今こそむしろ大切かと思えます。

## 2. ケースレポートの仕方

- ① ケースレポートをする意義は；
  - i) 非常にめずらしい（レア rare）疾患の場合
  - ii) めずらしい疾患ではないが、特異な経過・転帰をたどったケース
  - iii) 治療・施術への反応が独特であったケース
  - iv) 新治療法・技術の開発・試行・実験治療を行ってみた場合の効果
  - v) 非常に、取り扱いや施術・治療・リハビリに苦慮したケース
- ② どこか誰であるかが推定できそうな表現は絶対不可（個人情報保護）です。  
症例1、症例2などとします。
- ③ この場合も、症例のデータ（写真など）について、自分（達）のものでない場合には、借用先を明記して下さい。

## 3. データのまとめ方

- ① X線、MRI、その他全てのデータについて、自分（達）が採取したものでない場合には、借用先を明記して下さい。（著作権の問題）
- ② データの計数が1ケタ（5例、8例など）の場合に、安易に平均値（代表値の1つ）を出しますと片寄った値になることがあります。その場合には中央値の方が妥当です。
- ③ 各症例について、誰であるか見当がつきそうな表現はなさないように（個人情報保護）して下さい。  
表記は、例えば症例1、症例YZなど。

## 4. 発表要旨（抄録）の書き方

- ① 5W1H（when いつ、where どこで、who 誰が、what 何を、why どんな目的で、how どのように）が分かるように書いて下さい。
- ② <目的><方法><結果><考察><結論>の順に、要領よく短くまとめます。<結果>には、得られた事実のみを書きます。
- ③ 文章は全て「～であった」「～となった」の、である調、過去形となります。
- ④ 発表者としての主語を入れる必要がある場合には、「われわれは～」「演者らは～」などと書きます。
- ⑤ 原稿は、パソコンのワープロソフトなどで作成し、A4版用紙に横書きとします。手書原稿は採用しません。

## 5. 執筆要綱

投稿論文の種類と内容説明

- 原著論文 : 新規かつオリジナルであることが構築研究委員会において認められたものです。内容が新しい情報、理論の提示を通して独創性を主張できるものです。明確な研究結果として一定の結論が得られたものです。
- 研究報告 : 独創性を問うものではないが、特に柔道整復分野において有用、かつ意義があるものです。
- 症例報告 : 症例の臨床経験に基づいた研究をおこなって考察が得られたものです。
- 研究資料 : 柔道整復、あるいはそれに関連した資料を主とした情報を提示したものです。
- 短 報 : 内容は原著に近いが短く結論の速報として書いたものです。
- 治療技術 : 介入において客観的情報を示し、オリジナル性の高いものです。
- その他 : 柔道整復に関する多方面からの記事を含み、会員の質的向上に貢献できるものです。

## 6. 論文の構成

- 表 題 : 内容を具体的に表し、かつ簡潔な表現とします。  
用語には、キーワードを含むように工夫して下さい。
- 著 者 名 : 著者は本研究に寄与するところの大きい人のみとします。  
研究の協力者は謝辞の中で記載して下さい。
- 要 旨 : 目的、方法、結果、結論を簡潔に記載して下さい。
- キーワード : 主に主題および要旨から選び、論文の内容を最も適切に表す言葉とします。
- 本 文 : 1) はじめに (序文、まえがき、緒言)  
本研究の背景、経緯、意義などを述べる導入部分。  
これまでの研究との関連性を記載します。
- 2) 対象および方法  
用いた理論、条件、材料、方法、手順などを記載します。  
特に、方法は関連研究者が追試できる内容とします。
- 3) 結果  
実験結果、データ紹介、明らかとなった関連性、観察結果、効果などを記載します。
- 4) 考察  
結果の分析と検討、結果の比較と評価、問題提起、今後の課題、示唆などを記載します。
- 5) 結論 (まとめ、結語)  
本研究の結果内容を簡潔に記載します。
- 図・写真・表 : 本文に示した順に掲載し、その図表の番号や説明は図では下に、表では上につけて下さい。
- その他 : 原稿には一連のページ数を記載して下さい。

## 7. 発表の仕方

- ① パワーポイント、スライドなど、視聴覚メディアをうまくお使い下さい。
- ② 発表時間の厳守  
例) 8分間→400字詰原稿用紙8～9枚  
10分間→400字詰原稿用紙10～11枚です。
- ③ 慣れていない方は、必ず発表用の下書き原稿を②に合わせて書くことをお勧めします。ルーズに進めると、必ず結論へ行かない前に終わってしまいます。
- ④ ここでも5W1Hを要領よく入れて下さい。

## 8. 提出

発表原稿、発表時使用データの提出は、所定の期日までに刷り上り（プリント）1部に、原稿のファイルを書き込んだ電子媒体（フロッピーディスク、CD-R、USBなど）を添えて、事務局宛に送付して下さい。又は、E-mailで事務局宛にファイルを直送して頂いても構いません。

但し、使用ソフトやファイル形式については、事前に受理可能かどうか事務局に確認して下さい。

投稿原稿、発表時使用データ及び記録媒体は返却しません。

## 9. 校正

校正は著者が責任を持って行い、校正後の原稿、データを投稿して下さい。

## 10. 送付先

「学会誌原稿、発表データ」と朱書して、下記に送付下さい。

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉二丁目9番8号  
社団法人宮城県柔道整復師会 内  
宮城県「柔道整復学」構築研究委員会 事務局  
TEL : 022-262-9181 FAX : 022-262-4181  
E-mail : m j s @ m j s . o r . j p

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会  
委員会特別顧問 鈴木 省三  
委員長 岩佐 和之  
委員 若井 晃